

神戸電子専門学校 2019年度シラバス

■科目基本情報

科目名	音響効果 I	科目コード	6040
シラバスコード	196B5A-6040		
授業時数/週	3時間		
開講年次・学期	1年次 通期		
必修/選択区分	必修		
担当教員	中塚 祐介		
教員の実務経験	実務経験のある教員による授業科目		
職業実践専門課程		連携企業等	
備考			

■科目詳細情報

授業概要	サウンドデザイナーとして必要な基礎知識の習得や、DAWを使用しての効果音制作(フォーリー、シンセサイジング)における実習をする。
到達目標 (前期)	フォーリー、シンセサイズの基礎を習得し、効果音を制作できるようになる事を目標とする。
到達目標 (後期)	フォーリー、シンセサイズの応用を習得し、動画コンテンツに対して効果音を制作できる事を目標とする。
授業方法	講義と実技
実践的教育の内容	具体的な効果音の制作ではなく、映像や写真に対して、どのような効果音が必要なかを自ら考え、制作する事が実践的であるといえる。
評価方法 (前期)	課題制作物での評価 (効果音制作課題)/ 40パーセント 実技テストでの評価 (フォーリー実技試験)/ 60パーセント
評価方法 (後期)	課題制作物での評価 (効果音制作課題)/ 40パーセント 実技テストでの評価 (フォーリー実技試験)/ 60パーセント
授業外における学修	課題が宿題となる事がある。
授業計画 (前期)	第1週 音とは? 音の基本的知識を講義
	第2週 DAWとは? 実際にCubaseを触り、基礎的な使用を理解する
	第3週 イメージ実習 1 写真に対して音をつける (ライブラリー音源使用)
	第4週 イメージ実習 2 写真に対して音をつける (ライブラリー音源使用)
	第5週 MIDIについて MIDIについての基礎を講義
	第6週 シンセサイジング基礎 1 シンセサイザーの基礎を講義
	第7週 シンセサイジング基礎 2 Cubase Retrologue の使い方 1
	第8週 シンセサイジング基礎 3 Cubase Retrologue の使い方 2
	第9週 シンセサイジング基礎 4 Cubase Retrologue の使い方 3
	第10週 イメージ実習 3 写真に対して音をつける (ライブラリー音源 NG)
	第11週 フォーリー基礎 1 フォーリーの基礎を講義
	第12週 フォーリー基礎 2 フォーリーのセッティングを実習にて学ぶ
	第13週 フォーリー基礎 3 グループで動画に対して音をつける 1
	第14週 フォーリー基礎 4 グループで動画に対して音をつける 2
	第15週 フォーリー基礎 5 グループで動画に対して音をつける 3
	第16週 実技テスト フォーリー基礎 実技テスト (セッティングまで)
	第17週

神戸電子専門学校 2019年度シラバス

授業計画（後期）	第18週	復習 1 前期で習った事の復習 1
	第19週	復習 2 前期で習った事の復習 2
	第20週	シンセサイジング応用 1 Cubase Retrologue を使用してより複雑な効果音を作成する 1
	第21週	シンセサイジング応用 2 Cubase Retrologue を使用してより複雑な効果音を作成する 2
	第22週	シンセサイジング応用 3 Cubase Retrologue を使用してより複雑な効果音を作成する 3
	第23週	効果音制作実習 1 シンセサイズとフォーリーのハイブリッド効果音制作 1
	第24週	効果音制作実習 2 シンセサイズとフォーリーのハイブリッド効果音制作 2
	第25週	効果音制作実習 3 シンセサイズとフォーリーのハイブリッド効果音制作 3
	第26週	こだわりの効果音発表会 制作した効果音を発表し、ディスカッションする
	第27週	動画に対しての効果音を制作 1 与えられた動画に対して効果音制作する 1
	第28週	動画に対しての効果音を制作 2 与えられた動画に対して効果音制作する 2
	第29週	動画に対しての効果音を制作 3 与えられた動画に対して効果音制作する 3
	第30週	実技テストに向けて フォーリー応用 実技テストに向けての復習
	第31週	実技テスト フォーリー応用 実技テスト（課題動画 あり）
	第32週	効果音 発表会に向けて 効果音発表会に向けての準備
	第33週	効果音 発表会
	第34週	
教科書・教材	「なし」	
参考文献・資料	特になければ「特になし」	
履修上の留意点	特になければ「特になし」	